

# 報道資料

平成24年6月15日  
奈良県医療政策部地域医療連携課  
病院連携推進係  
担当：表野、中村、吉田  
直通：0742-27-8935  
内線：3150、3197

医療情報を収集・分析する取り組みをしています  
～安心して信頼できる医療を受けるしくみづくりのために～

県では、奈良県の地域医療の再生に向けて、医療関係者と協働して、さまざまな事業に取り組んでいます。

その中で、医療情報を収集し、分析する活動を、平成22年度から始めており、その状況をお知らせします。

なお、従来のような「医療機関数」や「処置（検査）数」のような外形的な数字ではなく、都道府県が医療の内容に踏み込んだ情報※例を収集・分析するしくみづくりを行うのは、奈良県が初めてです。

## 【概要】

従来、医療の状況を表すには、患者数や処置数などの統計が使われてきましたが、医療そのものの内容を示すことができないため、適切な質の高い医療を求めていくには十分な情報とはいえませんでした。

平成22年に策定した奈良県保健医療計画の理念である「必要な医療を適切に受けられる体制」を構築するためには、地域で病院がどのような医療を提供しているのか、その医療の内容を関係者が共有するしくみづくりが不可欠です。

これらを解決するため、国内のいくつかの病院や団体（国立病院機構など）では、「指標」を設定して医療の質の評価をする取り組みをしています。

県では、特に救急の重要疾患（脳卒中、急性冠症候群、重症外傷、急性腹症、周産期疾患）に着目し、共有していく情報として33の指標を定め、県立病院（奈良・三室・五條の各病院）及び県立医科大学附属病院で先行して情報収集を行いました。

今回、この取り組みの第1歩として、昨年、収集・分析した結果をお知らせします。

この取り組みが広がることによって、情報量が増え、また、継続的に行うことによって経年的な変化をみるとできれば、より正確に医療の内容がわかれことになります。

そのため、今後、適宜指標の見直しを行いながら、県内の病院へこの取り組みを広げていきたいと考えています。

その結果、それぞれの病院においては、診療体制を検討することができ、また、自院以外の状況を知ることにより、県内で提供される医療の均てん化が図られ、医療の質が向上していくことも期待できます。

さらに、県民の方々にもお示しすることによって、保健医療計画の理念である「県民が納得できる医療を提供する体制」づくりに資するものと考えています。

【従来の情報】

- 冠動脈造影検査、治療実施可能な病院数
- 循環器内科医師数・心臓血管外科医師数
- 経皮的冠動脈形成術（PCI）実施数

従来のデータでは、県内の対応医療機関数や医師数を見たり、検査や治療の実施した数をもって提供体制を把握していました。

【奈良県の取り組み】

- 急性冠症候群（ACS）1：病着からBalloonTimeまでの時間が90分以内だったSTEMI患者の割合

急性心筋梗塞（ST 上昇型心筋梗塞）の治療は、いかに早く、閉塞した冠動脈に血流を再開させるかで、予後が決まります。

「急性心筋梗塞（ST 上昇型）の診療に関するガイドライン」では、再灌流療法のうち経皮冠インターべーション（PCI:血流の再開に Balloon やステントを使用する治療）について、患者の病院到着から初回の Balloon 拡張するまでの時間（Balloon Time）を 90 分以内にすることが奨励されています。

「病着から Balloon Time までの時間」は、診断から、緊急心臓カテーテル検査及び治療の専門スタッフならびにカテーテル室の準備、さらには、PCI の手技の時間までを含む複合的な時間です。

時間の長短は、病院の設備や PCI 担当医師やスタッフ数だけでなく、各課程で必要な業務の効率性やスタッフ間の連携などにも影響されます。

これらの結果を元に、様々な角度で検証することは、院内の医療提供体制のどこに課題があるのかを把握でき、質向上につながると考えています。

【特に注意していただきたいこと】

これら指標の算出結果は、さまざまな状態の患者に行った一連の治療のうち、ひとつの要素だけを抽出して分析したものであり、個々の患者への治療が適切であったどうかを示すものではありません。

また、患者の有無、記録の有無に関わらず抽出、分析を行ったため、サンプル数が少なく「医療の内容」を適切に示しているのかが疑いのある指標もありますが、医療関係者が議論する資料になると考えて記載しています。

[REDACTED]